

横浜市地域まちづくり推進条例 20 周年記念

トークイベント開催記録 -概要版-



市民による地域まちづくりを支援する「横浜市地域まちづくり推進条例」が制定されてから 20 年。若い世代がまちづくりに参加する事例も増えている今、これまでの地域まちづくりの取組を振り返るとともに、地域まちづくりの未来をともに考える場としてトークイベントを開催しました。

【日時】令和 7 年 12 月 21 日（日）14:00-16:30

【会場】横浜市役所 議会棟 3 階 多目的室（中区本町 6-50-10）

【参加者】約 100 名

【プログラム／登壇者】

第 1 部 基調講演／法政大学法学部政治学科 教授 名和田 是彦 氏

第 2 部 パネルディスカッション／パネリスト 内海 宏氏、岩室 晶子氏、関口 春江氏、北原まどか氏
（ファシリテーター／名和田 是彦 氏）

第 1 部 基調講演／名和田 是彦氏

横浜市地域まちづくり推進委員会の委員長を長年務めていただいている法政大学の名和田是彦教授から、「横浜市地域まちづくり条例の 20 年をこれからの地域づくりに生かそう！」と題し、基調講演を行っていただきました。条例制定に至る横浜市のコミュニティ政策の展開、地域まちづくり推進条例の制定、その後 20 年間の運用と成果も含め、これまでの経緯を丁寧に振り返った上で、今後の地域まちづくりの課題についても触れていただきました。



【主な内容】

●地域まちづくり推進条例制定に至る横浜市のコミュニティ政策の展開と条例制定

1990 年代の「コミュニティ行政研究会」を契機に、横浜市は地域施設を拡充し、暮らしやすい都市の基盤を形成。2000 年代は地域福祉計画の導入や「協働」を理念とした横浜市政を背景に、地域まちづくり推進条例が 2005 年に制定されました。



●条例の運用と、施行後 20 年で見えてきた成果

地域まちづくり推進条例施行から 20 年で、ヨコハマ市民まち普請事業や横浜・人・まちデザイン賞など市民の創意工夫を生かす取組が定着。地域まちづくり組織やルール・プランの認定も進み、制度運用の成果が現れているとともに、近年は制度改善の取組として、地域福祉保健計画等にもとづく空間整備を支援する「市民主体の身近な施設整備事業」も創設され、さっそく成果を上げています。

●条例と横浜市の地域まちづくりの課題

人口減少と高齢化の進展により地域まちづくりの課題は変化し、従来の制度運用や人材確保が難しくなっており、どのように敷居の低い場を作り関心を持ってもらうかが重要です。また、地域のコーディネーター間の連携強化や、地域福祉保健計画との連携、派遣専門家の不足問題への対応等が今後の課題です。



第 2 部 パネルディスカッション

様々な分野でまちづくりに携わられている 4 名の方にご登壇いただき、前半は各パネリストにご自身の取組について紹介していただいた上で、後半は「これからの地域まちづくりを考えよう」をテーマに、今後の地域まちづくりに関する展望について、意見が交わされました。



●住民・社会ニーズに伴いまちづくりは多彩に！／内海 宏 氏（株式会社地域計画研究所 代表取締役）

条例制定においては幅広い参加と段階的な制度設計により「使われる条例」をめざしてきたことや、中間支援の重要性についてお話いただきました。建築協定更新時の担い手不足などを課題としてあげ、今後の住まい手の多様なニーズへの対応や多様で弾力的なまちづくりを実施する仕組みの在り方の追求、地域資源を活用した豊かな暮らしの実現、若者発意の新たなまちづくりの提案・チャレンジ等、新たな対応の必要性が示されました。



●子ども参画のまちづくり／岩室 晶子 氏（認定 NPO 法人ミニシティ・プラス 事務局長）

子どもが主体的に地域の課題に向き合ったり、地域を取材したりする取組を通じて、考え行動する力を育む取組が紹介されました。地域活動の現場では、子どもがやるのが予め決められていることが多い中、企画段階から関わる機会を増やすことで主体性を育み、子どもの力をまちに参画させていくことが、将来の地域の担い手にもつながることをお話いただきました。



●コミュニティで活用する空き家の可能性／関口 春江 氏（753 プロジェクト co-founder／ひとときデザインニ級建築士事務所 所長）

空家を改修した「Co-coya」を、用途を固定しない「無目的スペース」として位置づけ、複数の地域拠点や場がゆるやかにつながり、面的なまちづくりが広がっていることを紹介いただくとともに、暮らしに根ざした拠点づくりが、人の交流や新たな地域参加（小さな自治）を生み出す可能性について伝えていただきました。また、長期視点でまちづくりの理念を持った、土地所有者の存在の重要性についても語られました。



●まちづくりに「ゴール」はない 日々の軌跡を蓄積するメディアの役割／北原 まどか 氏（認定 NPO 法人森ノオト 理事長）

ローカルメディアの取組を通じて、市民が地域に関わる入口を広げてきた活動を紹介いただきました。丁寧な取材と編集のプロセスが人とまちの関係を育み、日々の営みを記録する「まちのアーカイブ」として、持続可能なまちづくりを支えていることが伝えられました。また、ローカルメディアを取材・編集するプロセスが、人と人をつなげ、結果的にまちづくりにつながっていることもお話されました。



■パネルディスカッションで引き出された、これからの地域まちづくりの視点

- ・年齢や世代を問わず、地域の中で意欲ある人が活動に挑戦できる手上げ型の実行体制の重要性
- ・人口を増やす前提ではないまちづくり、住宅地の更新
- ・住宅の機能に限定しない、空家の様々な用途でのコモ的な活用
- ・子ども・若者が地域で役割を担える機会の創出、将来の担い手になることの可能性
- ・顔の見える小さな単位でのコミュニティ形成（小さな自治）
- ・インターネットや SNS 等を活用した（ローカルメディアによる）新しいまちづくりの可能性